

政策オリンピック「ニホンザル対策のモデル構築」活動報告会次第

日時：令和8年3月3日（火）

13:30～15:30

場所：岐阜県庁3階304会議室

1 開会

2 あいさつ

3 活動報告

(1) 飛騨市鳥獣被害対策防止対策協議会（飛騨市）

(2) 揖斐郡森林組合（揖斐川町）

(3) 下呂市猟友会馬瀬支部（下呂市）

(4) ぎふ鳥獣対策ネットワーク（郡上市）

(5) 大垣市鳥獣被害防止対策協議会（大垣市）

4 質疑・意見交換

5 情報提供

6 閉会

令和7年度 政策オリンピック
「ニホンザル対策モデルの構築」

活動報告資料



令和8年3月3日
岐阜県農政部農村振興課鳥獣害対策室

係留気球×AIを活用した“サルから守る農業”への挑戦

○背景と目的

- ・飛騨市神岡町ではニホンザルによる農業被害が恒常的に発生
- ・高校に通う生徒が襲われるといった事案も発生しており、対策が急務

<取組のポイント>

☆サルの行動把握とそれに基づく対策を既存の製品よりも安価で実施し、横展開が可能な飛騨モデルを構築

○活動内容

捕獲檻への遠隔操作機器の設置

- ・わなを遠隔で作動させる装置「HUNTBOT」（岐阜大学・森部准教授開発）を捕獲檻に設置し、捕獲を実施

捕獲した個体に首輪を取り付け動態調査を実施

- ・AirTagと併用してGPS首輪も装着し、AirTagの効果検証とサルの行動圏を把握⇒AirTagによる行動圏把握・対策は困難

気球の打ち上げによる通信環境の確認

- ・気球によるAirTagの検知距離およびLPWA通信機器の活用の検討を目的に、通信環境調査を実施



気球通信テスト



GPS首輪による行動追跡

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

- AirTagを使用した行動圏調査は、データ取得のタイムラグや位置情報のズレ等が課題

⇒AirTagで行動圏調査をするには、有効通信距離の改善と生息域の受信端末（iPhone）密度の向上が必要

- 事業者のシステム開発に時間を要し、実証実験が思うように進まなかったため、次年度も継続して行動圏調査+捕獲を含めた効果的な対策について検討、実行する予定

Ape Oasis ～サルの楽園創造プロジェクト～

○背景と目的

- ・近年、揖斐川町内の山沿いの集落では、ニホンザルによる農作物被害が顕著
- ・近年の山は、不成熟造林地が広がり本来の森林機能が失われつつあり、サルにとって食べ物のない「住みにくい山」

<取組のポイント>

☆サルがわざわざ食料を求めて人里に降りてこなくても、生きていける環境を山に作り、人とサルの共生を図る

○活動内容

① 不成熟造林地の再生

- ・刈払い・地拵え作業（R7年8月）
- ・ドローンによる苗木運搬及び植栽作業（R7年10月）
- ・東津汲での苗木運搬及び植栽時に、地元小学校の児童（4校、78人）を対象に森林体験学習を併せて実施（R7年10月20日、21日）



実のなる木の植栽



ドローンによる苗木運搬



植栽後

② 見回り

- ・GPS首輪によるサルの移動・行動範囲のデータ取得（R7年9月～R8年1月）
- ・植栽地の見回り（R7年11月～R8年1月）。11月にニホンジカによるものと思われる苗木への食害を発見被害は木の芽の食害、枝の折損、幹の剥皮など、2～3割程度の被害と推測
- ・ニホンジカによる被害防止に苗木の周囲に枝を敷きつめたり、枝を幹に巻くなどして保護した結果、被害拡大の抑制に一定の効果

③ 関係団体（揖斐川町）の活動

- ・GPS首輪で取得したデータを、町ホームページに掲載して公開（住民へのサルの動きの周知、意識付け）
- ・サルの被害防除のため「追い払い講座」（2回）、「サル対策上級者育成講座」（5回）を開催
- ・ニホンザルの生息状況調査結果報告会を開催（4地区）



GPSによるサルの追跡

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

□GPS首輪発信器により、詳細なサル行動域データを揖斐川町に提供。植栽を行った有鳥地区は、高頻度で植栽地と周辺集落等をサルが移動していることを確認。東津汲地区でもサルの群れを確認

□森林体験学習を通じて、地元小学生のサルの生息域拡大と山林の現状に関する理解が深まる

■植栽した樹に実がなるまでに3年ほどかかるため、継続した管理と生息状況の確認が必要

みんなで手軽に！サルおびき寄せ大作戦

○背景と目的

- ・ニホンザルの効率的な駆除には、大型捕獲檻による群れ捕獲が有効
- ・しかし、従来の果物や野菜の寄せ餌では、腐敗・食べつくし・持ち去りが発生し、誘引効果がすぐに低下

<取組のポイント>

☆寄せ餌の種類と設置方法を工夫し、サルを長時間檻の中に留め、効率的な群れ捕獲を目指す！



○活動内容

①資材の作成、設置（5か所）

- ・米を檻の中の床に散布
- ・穴を数か所開けたペットボトルにとうもろこしや大豆を入れ、檻の中に吊るす



寄せ餌（大豆）



寄せ餌（米）

②捕獲状況の調査

- ・トレイルカメラを設置し、檻の中および周辺のサルの動きを観察
- ・猟友会員による見回り、寄せ餌の追加・交換



トレイルカメラ設置



見回り・寄せ餌の追加

③現地研修会の実施

- ・下呂市猟友会会員向けに捕獲技術現地研修会を開催（11月1日）
- ・木曾町開田高原地域区長会による視察に対応（1月30日）



現地研修会



県外からの視察対応

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

- 馬瀬黒石地内では、11月30日（5頭）、12月6日（1頭）、12月19日（1頭）にサルが立て続けに出没
 - 警戒しているものの、檻の中の餌に興味を示す
 - サルの活動が活発化する夏、秋に群れ捕獲予定



サル5頭確認（11/30馬瀬黒石）



破壊された寄せ餌（ペットボトル）

- 時折破壊された寄せ餌（ペットボトル）が発生
 - 強度が高いペットボトルを用意することが必要

➡ 実証を継続し、群れ捕獲を目指す！

サルとの共存を目指す総合獣害対策プロジェクト

○背景と目的

- ・郡上市におけるサルの農作物被害額は増加傾向。対策は捕獲が中心
- ・群れの動きを把握し、群れの状況に応じた効果的な被害防止対策が必要

<取組のポイント>

☆GPS情報により群れを見える化し、集落住民の対策意欲の向上と追い払い活動の効率化を図り、被害を軽減

○活動内容

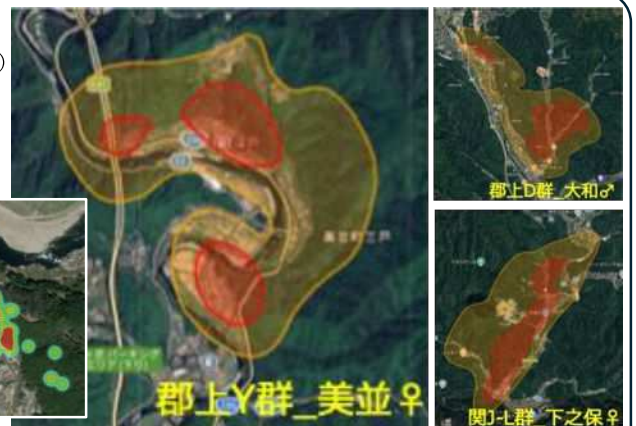
○GPS首輪装着（3頭：11/30,12/17,1/6）

捕獲→出動→吹き矢発射→体重計測→GPS首輪装着→持机菜投与→放獣



➡ ○行動分析

対象地域（三日市）のねぐらは特定エリアに集中
→優先的に対策



○追い払いテスト（1/10,1/21）

- ・サルの行動エリアの移動を確認

○集落説明会（1/30,2/21,28）

- ・各集落にGPS首輪装着と追跡について報告

○追い払いイベント（3/1）

- ・集落住民と学生の協働による追い払い実証

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

- サルの動きが「見える化」されたことで集落住民の対策意欲が向上
- 集落周辺のねぐらがわかったため、ねぐらエリアの緩衝帯整備等の対策が必要
- GPS情報と遺伝情報を組み合わせ、より効果的な群れの管理方法を継続的に検証

GPSデータを活用した地域ぐるみでのニホンザルの追い払い体制の構築

○背景と目的

- ・大垣市上石津町では、防護柵等の整備によりニホンジカ等による農作物被害が減少傾向にある中、ニホンザルによる農作物被害は横ばい
- ・このことを踏まえ、上石津町時地区では行政主導の取組と地域主導の取組の両輪による対策に取り組み中

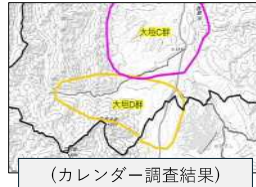
<取組のポイント>

☆GPSを活用した地域住民による追い払い、多獣種防護柵「おじろ用心棒」を組み合わせ、サル対策のモデルを構築

○活動内容

・GPS首輪を活用したニホンザルの群れの行動把握

→岐阜県が実施したカレンダー調査を参考に、時地区を行動範囲とする大垣C群(R6実施)、大垣D群にGPS首輪を装着し、行動を追跡



・追い払い用備品の購入（ロケット花火等）

→追い払い用ロケット花火等の配布・貸与に加え、GPSデータを提供し追い払いを効率化

・多獣種防護柵「おじろ用心棒」の設置研修会の開催

→モデル園にて開催（10/5）、以降カメラを設置し状況観察



○効果が確認できた内容、課題や改善事項

□モデル園の地権者からは「想定していたより比較的安価に設置できた。効果はこれからだが、いまのところ獣害被害はない。」との評価（トレイルカメラを用いて継続確認中）

■人数が少ない集落のため、地域ぐるみの追い払い体制（日中に動ける人の整理等）の検討、ニホンザルの発見から集合、追い払いの実施までを体系的に実施することが必要（耕作者以外の協力が不可欠）

地域住民協働によるICTを用いたニホンザル被害対策

○背景と目的

- ・当地区はニホンザルによる農作物被害が深刻化しており、農業従事者の営農意欲の低下や経済的損失が発生
- ・農作物被害だけでなく、小学校付近に出没するなど人身被害の発生も懸念
- ・ICTやAI技術を活用し地域住民が一体となった総合的な対策を実施して、被害軽減と地域の農業振興の活性化を図る

<取組のポイント>

☆住民が意欲的に参加し、地域ぐるみでニホンザルによる被害対策を実施

○活動内容

R7. 9.8 サル檻に誘引物の設置

※以降、定期的に設置。捕獲時は「ほかパト」で通知があるよう整備

R7. 9.28 地元住民に集落アンケートを実施

R7.10.26 集落点検、サル被害防止研修会を実施

R7.10.29 ユニット会議の実施、関係機関の役割分担の共有

R8. 1.29 サル檻周辺に監視カメラの設置

<今後の予定>

- ・サル監視カメラの増設
- ・サル捕獲後、GPS首輪の取付け及び生息区域の特定
- ・煙火を用いた地元住民による追い払い
- ・林縁の整備
- ・小型サル檻の設置



○効果が確認できた内容、課題や改善事項

□住民意識が向上し、ICT活用を含めた地域一体の被害対策体制を構築

■捕獲に至らず効果が限定的なため、サル監視カメラの増設、GPS首輪による行動把握、檻の適正配置、煙火による地域追い払い及び林縁整備を実施し、実効性の高い捕獲体制へ改善する。

猟友会及び地域の連携強化～地域一体となってニホンザル対策に総合的に取り組む～

○背景と目的

- ・ニホンザルによる農作物への高額被害が近年横ばい。市内の他地域よりも約5倍の被害額
- ・地域住民による追い払い活動も実施しているが、被害の発生が常態化

<取組のポイント>

☆「防御」、「駆除」、「検証」の面から総合的な対策を実施

○活動内容

「防御」

- ・住民によるパトロール及び追い払い
- ・サルの出没マップの作成



↑出沒マップ
←追い払い練習

「駆除」

- ・新規サル檻の設置
- ・サル檻での餌付け



「検証」

- ・出沒マップ等からサル檻の効果分析
- ・エサの補充や捕獲活動の効率化



エサの効率化で作
付け実施↔

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

- 住民パトロールや出沒マップによる情報共有、効果的な追い払いにより、R7年度の見撃情報は減少傾向
- 新規サル檻へ餌付けによる捕獲を準備中。多くの個体を捕獲するまで時間が必要

サルよ 人里には住みにくいぞ!! ～ニホンザルと人との棲み分けを目指して～

○背景と目的

- ・山県市では、ニホンザルによる農作物の被害が市内全域、なかでも高富地域、伊自良地域で多発
- ・獣害防止柵を設置しているが、サルは器用に手足を使い身体能力や記憶力も高いため、対応に苦慮
- ・過疎化が進む集落における耕作意欲の低下を防ぐため、捕獲による個体数調整が急務

<取組のポイント>

☆種類・大きさの異なる捕獲檻の捕獲効率の検証。目撃情報に基づく捕獲檻の移動判断の検証

○活動内容

1 捕獲

- ・大型捕獲檻（既存）の移設及びその周辺でのくくりワナの設置、餌付け
- ・中型捕獲檻の設置及びその周辺でのくくりワナ設置、餌付け
- ・目撃情報に基づく捕獲檻の移設



大型檻の移設

2 追い払い

- ・山県市猟友会会員による見回り、目撃情報の収集
- ・山県市猟友会会員による追い払い



見回り



目撃情報の収集



追い払い



中型檻の設置



くくりワナの設置

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

- 見回りや目撃情報をもとに、SNSツールを用いて地域住民と情報共有
- 捕獲に至っていないことから、サルの出沒情報をもとにした檻の設置場所の検証が必要

サル捕獲檻の活用

○背景と目的

- ・サルの群れが当地区に頻繁に現れ、農作物被害が多発
- ・被害対策として侵入防止柵や大型捕獲檻を設置しているが、近年大型檻による捕獲が不調

<取組のポイント>

☆効果的な餌付けによりサルの群れを呼びよせ、大型檻により一網打尽に捕獲

○活動内容

1 大型檻での餌付け

- ・地域の農業団体に依頼し、大型檻の餌（柿、さつまいも、みかん）を補給するとともに、地域のサル出没状況などを記録（12/5～2/17）

2 巡回調査

- ・杉洞区・ふるさと保全の会・営農組合が巡回し、サルを誘引状況を確認
- ・12月26日、トレイルカメラにより寄せ餌の柿・サツマイモの食べ始めを確認
- ・1月6日から、群れが来て、主に10～15時にかけて餌を食べていることを確認
- ・1月13日から、寄せ餌をみかんに変更（よく食べているのを確認）
- ・1月16日から、檻の中に慣れさせるため少し多めに餌を追加
- ・1月20日から、サルの檻への寄り付きを確認できず



○効果が確認できた内容、課題や改善事項

□犬山モンキーセンター元職員のアドバイスにより、寄せ餌に「柿」と「さつまいも」を選択。柿が一番効果があり柿の無い時期には、「みかん」を使用したところよく食べ、サルの群れを呼び寄せれることを確認

■餌付けによりサルは一時的に寄り付くが、しばらくすると来なくなることが繰り返されるため、その原因究明と捕獲のタイミングの検証が必要

■よりサルの行動パターンを把握できるよう、地域住民が一丸となった巡視体制の整備を検討

離れザルによる農作物被害に対する柔軟な対応策

○背景と目的

- ・近年、市内において野生のニホンザル（はなれザル）の出没が確認されており、農作物被害や観光客への人的被害が想定されるため、各地域に合った対策が必要

<取組のポイント>

☆市内各地域にあった対策で農作物被害等を防止

- 〔農作物被害が発生している市内北部地域では、箱わなによる捕獲を検討しながら追い払い方法の周知〕
- 〔人的被害が予想される金華山周辺地域では、エサやりの禁止などサルを寄せ付けない方法などの啓発〕

○活動内容

被害防止研修会の開催

(市内北部地域)

<方県、黒野、網代、山県、巖手、長良、常磐、岩野田>

- ・出没箇所及び被害状況の情報共有
- ・猟友会会員を講師とした被害防止に向けた研修会の実施

(金華山周辺)

- ・エサやりの禁止や追い払いサルを近寄らせない方法などの啓発



被害防止研修会の様子



使用する箱わな

○効果が確認できた内容、課題や改善事項

□今年度は、岐阜市北部地域及び金華山周辺地域での目撃があった事を受け、対象地域を広く設定し対応

□各地域の農政推進委員会員の被害防止に向けた意識が向上。また金華山周辺での目撃情報がほとんど無くなり人的被害の発生はなし

■来年度以降は、岐阜市北部地域の特に目撃情報が多かった地域（網代・方県等）での被害発生に対応

今後の横展開に向けた取組支援について



岐阜県農政部農村振興課鳥獣害対策室

1

1 政策オリンピック「ニホンザル対策のモデル構築」



◆「サル」被害対策に向けた新たな取組

政策オリンピック 県が掲げる「10の目指すべき目標」の実現に向け、各種団体から優れたアイデアを募集し、新たな政策を企画・立案・実施するための手法

ニホンザル対策のモデル構築

- ・ 地域が一体となりニホンザルの被害から農作物を守る対策について、県民から広くアイデアを募集(R7.4.1~5.13)
- ・ 16団体からの応募を、独創性や実現性などの観点から審査

4団体を支援対象団体に決定
(補助率)10/10、上限3,000千円

6団体を追加採択
(補助率)10/10、上限1,500千円



他地域へ横展開

- ・ 令和8年3月3日 活動報告会
- ・ 効果が確認された優れた手法については、他の地域へ横展開

2

2 ニホンザル対策の横展開に向けて

令和7年度



政策オリンピック

10団体によるアイデアの実践



サル群れの行動把握



広葉樹林化



大型檻での捕獲



追い払い活動

など

令和8年度

アイデアの改良・複数組み合わせで、他の地域で実践

実践団体・集落を募集！

募集期間：令和8年4月～5月中旬頃

市町村を通じて要望調査予定

実践団体へ
活動費を助成



3

ニホンザル対策の横展開に向けた取組

政策オリンピックの実証事業を行う団体に活動費を助成

【内容】

政策オリンピックにおいて有用性が確認された対策の全県展開に向けた実証に必要な経費を補助

- ・ 事業主体：地域協議会、猟友会、森林組合など
- ・ 補助率：定額（上限3,000千円/地区）
- ・ 対象経費：ニホンザルによる農作物被害を軽減するためのモデル的な取組を実施するための経費

調査・捕獲・追い払い等に必要な資機材の購入費、役務費、委託料、使用料、機器レンタル料、報償費、賃金、旅費など

予算成立前につき、今後、内容に変更がある場合があります

4

令和8年度事業実施に向けたポイント（例）

実践内容

- 地域の实情に応じて、**必要な改良**を加えているか
- 複数の**対策を組み合わせ**た総合的対策か

現状・成果

- 対象地域の**被害額・被害箇所を把握**しているか
- 被害軽減の**効果が十分見込めるか**

実施体制

- 地域住民との協働**で対策に取り組むか
- 市町村の支援 又は 地域協議会構成員としての参画**が見込めるか

情報発信

- 県の求めに応じ、**取組状況・被害状況を報告**できるか
- 取組状況について、自ら**情報発信**できるか

地域みんなで
取り組もう



実施規模・予算範囲で、3～4団体を採択予定

5

令和8年度実施スケジュール（予定）

令和8年度採択団体

- 4月上旬 実施団体募集
・計画書（案）提出
- 5月中旬 採択団体の決定
活動費助成の申請
- 6月上旬 事業着手
- 3月 事業完了・実績報告
- 翌4月 実施状況報告

令和7年度採択団体

- 4月～ サル対策の継続・改善
- 後続く団体へアドバイス
- 翌4月 実施状況報告

事例集の作成（県）

- ・実施状況や効果発揮の場面などを取材します。
- ・写真、動画撮影にご協力をお願いします。

6

3 ニホンザル対策に活用できる補助事業

(1) 市町村被害防止計画に基づく取組を支援

○対策は、生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3本柱で実施

○鳥獣被害防止総合対策交付金【国補】による取組支援

支援内容：研修会の開催、鳥獣の生息・動向調査、防護柵の設置、
捕獲機材の導入、捕獲活用経費の直接支払、新技術実証など

事業主体：地域協議会ほか

補助率：1/2以内、定額

【生息環境管理】

- ・雑草・放任果樹の除去
- ・緩衝帯の整備等



【侵入防止対策】

- ・防護柵の設置
- ・追払い活動



【捕獲】

- ・鳥獣の個体数抑制
- ・捕獲機材の導入



7

(2) ニホンザルの個体数調整捕獲事業

第二種特定鳥獣管理計画に基づき、加害レベルが高いサルの生息数を半減させるため、サルの個体数調整捕獲に必要な経費を支援

・事業名：ニホンザルの個体数調整捕獲事業

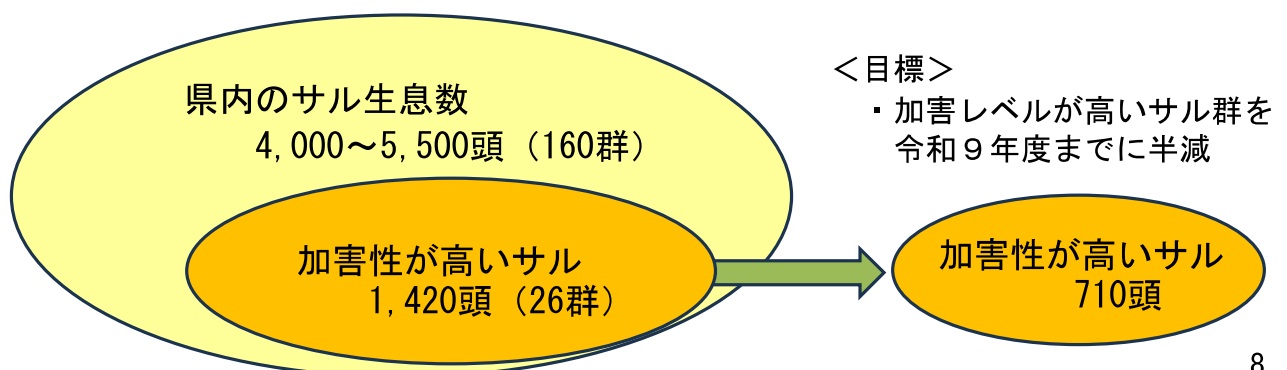
・事業主体：市町村

(加害性が高いサル群れが生息する11市町)

・補助率：10/10

①捕獲報償費 サル1頭あたり15,000円
(参考：国交付金単価 8,000円)

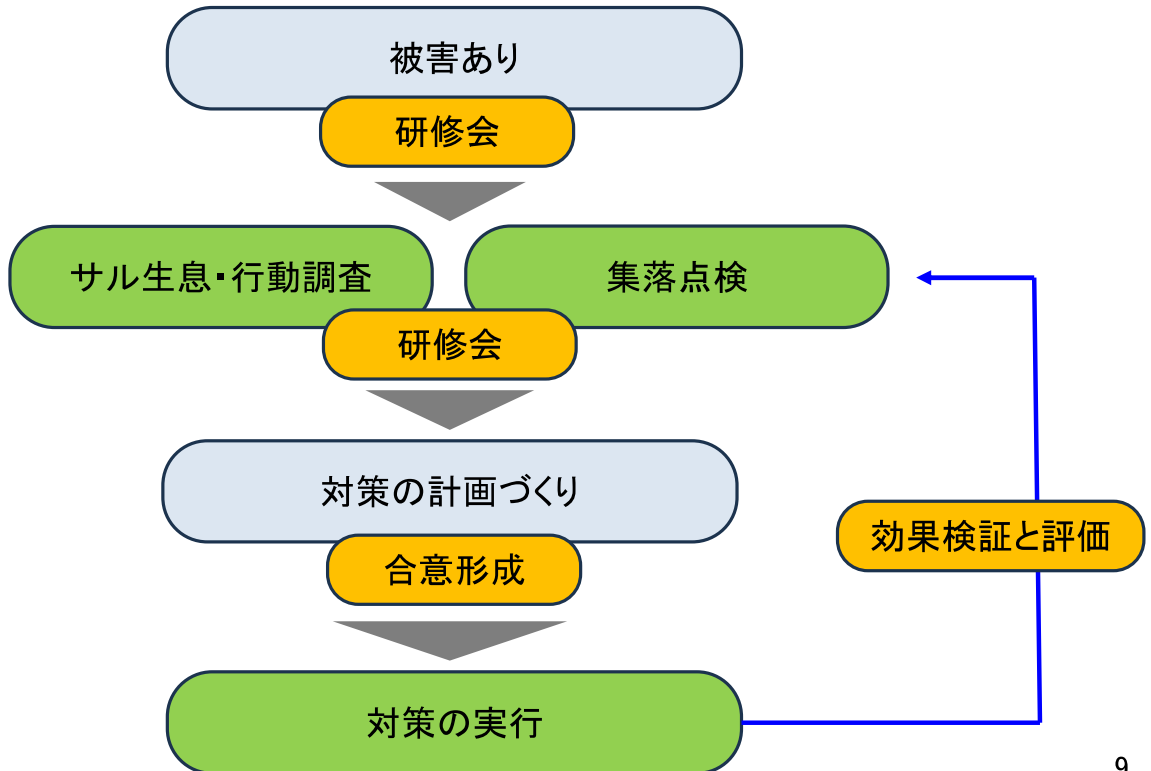
②捕獲促進費 200千円/市町村



8

サル対策の取組にあたって

いかに地域ぐるみで対策を実行できるかが、対策の持続性・効果を左右



<メモ>